

研究代表者の所属と専門分野

代表者名	代表者所属・役職	専門分野概要
松重 和美	京都大学国際融合創造センター・教授	ナノテクノロジー
藤田 静雄	京都大学国際融合創造センター・教授	先進電子材料
石田 謙司	京都大学大学院工学研究科・講師	機能物性工学
中條 善樹	京都大学大学院工学研究科・教授	高分子合成
野田 進	京都大学大学院工学研究科・教授	光デバイス
檜山 爲次郎	京都大学大学院工学研究科・教授	有機材料化学
今堀 博	京都大学大学院工学研究科・教授	光機能材料
伊藤 紳三郎	京都大学大学院工学研究科・教授	高分子物性
北川 進	京都大学大学院工学研究科・教授	錯体化学
山田 啓文	京都大学大学院工学研究科・助教授	機能薄膜材料
立花 明知	京都大学大学院工学研究科・教授	理論化学
村田 靖次郎	京都大学化学研究所・助手	炭素水素科学
玉尾 皓平	京都大学化学研究所・教授	有機合成化学
足立 基齊	京都大学エネルギー理工学研究所・教授	エネルギー利用過程
矢野 浩之	京都大学木質科学研究所・助教授	木質材料機能
大須賀 篤弘	京都大学大学院理学研究科・教授	集合有機分子機能

科学技術の統合による新産業創出 学際的・業際的アプローチの必要性

包括的産学融合アライアンスの挑戦:

「異なる知の融合による創造」のため、包括的テーマの下に複数のテーマを立ち上げ、異業種企業群との連携とテーマ間の相乗効果を狙う「新しい形の融合連携」

現在の取り組み

- ◇ 異業種、異才が融合することで、これまで気づかなかったもの、新しいものが創出されている。
- ◇ 材料プロジェクトで合成した化合物をデバイスプロジェクトで評価し、企業が性能向上を支援している。
- ◇ 逐次的ではない、同時進行型の研究開発を推進中。

包括的産学融合アライアンスのモデル

異業種企業連合による支援と技術の垂直統合

分子設計

有機合成

高分子合成
・複合化

評価・プロセス

機能デバイス

新規有機材料に適したプロセス技術による機能の実現

既存物質からスタートして分子設計にフィードバック

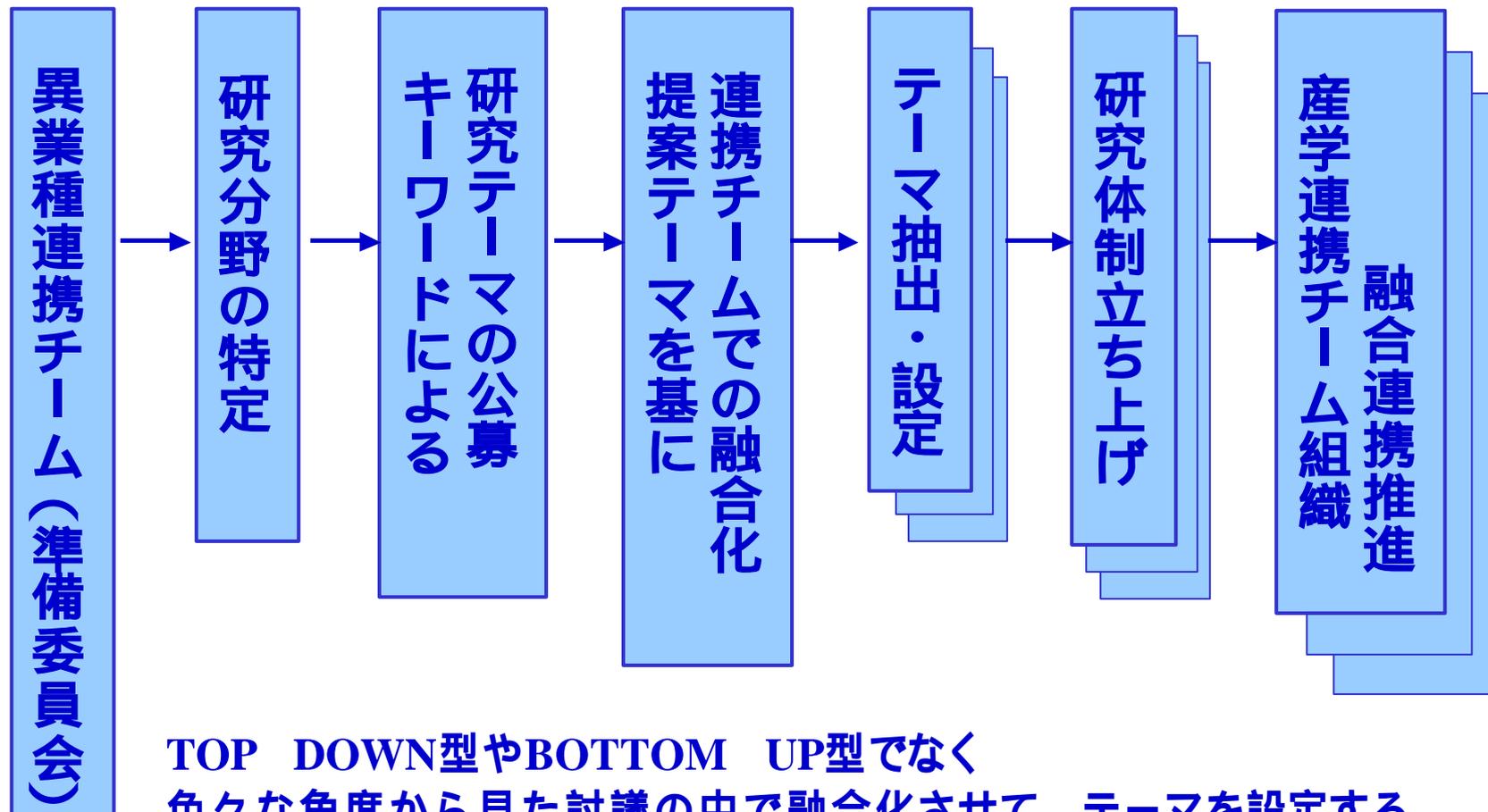
包括的産学融合アライアンスの推進過程

2001/11

2002/4

2002/8

2002/10



TOP DOWN型やBOTTOM UP型でなく
 色々な角度から見た討議の中で融合化させて、テーマを設定する

包括的産学融合アライアンスの構成 (Integrative Industry-Academia Partnership)

包括的産学融合アライアンス

有機系エレクトロニクス・デバイス開発融合室
融合室長：大学、副室長：企業

戦略委員会
(メールメンバー)

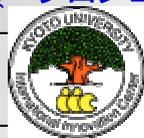
推進委員会
(メールメンバー)

知財契約WG
知財推進WG

広報WG

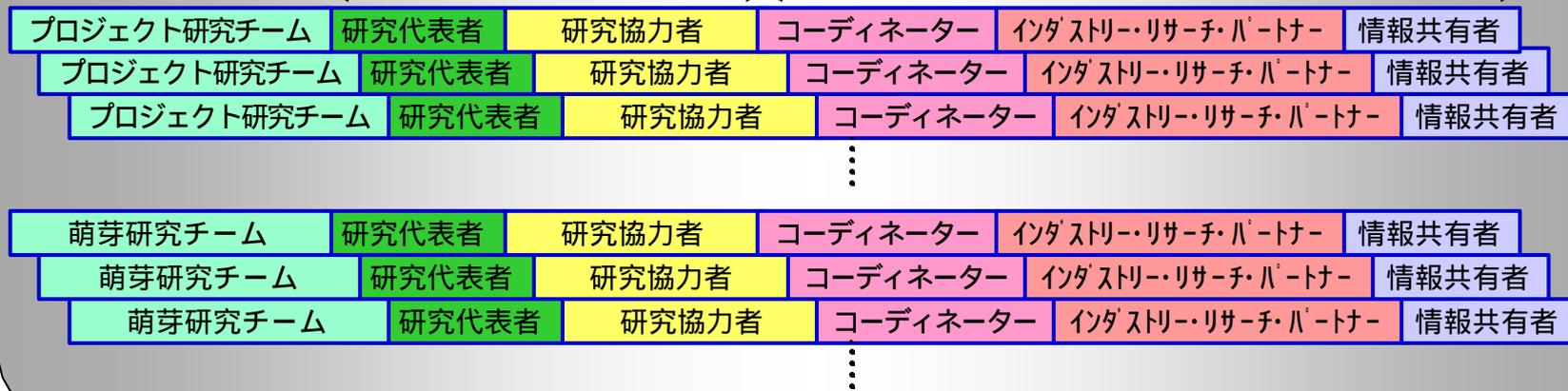
企業側と大学側双方のメンバーから構成される委員会・WG

ワーキンググループ (3) : プロジェクト研究チーム(7) 萌芽研究チーム(9)



京都大学側要員(90)

企業側要員(80)



アライアンス設立と運営から学んだ事

- **ビジョンの構築**と大学側のシステム対応
- 企業・大学に熱意を持って当たる担当者・チームの存在
- 研究協力部局との密接な連携
- 文部科学省の支援 = **産学官連携**
- 知的財産の取り扱い、それぞれの貢献をオープンに認知
- 企業でのトップの決断 - 産学官連携の社会的認知
- この仕組みは一つのモデルで種々のテーマ、組織構成が可能
- 今後の法人化後の大学のあり方のモデルにもなりうる
- 京大の強みは化学だけでなく、電子デバイス、プロセスのポテンシャルの高さ
- アライアンス - アライアンス連携の可能性
- 「**異なる知の融合**」の場としての大学の重要性の認識